Program

ヴァイオリン：　石田 泰尚
ピ　ア　ノ　：　小埜寺 美樹

モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ
ト長調　K301

第1楽章 アレグロ・コン・スピーリト
第2楽章 アレグロ

グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ第3番
ハ短調　Op.45

第1楽章 アレグロ・モルト
・エド・アパッショナート
第2楽章 アレグレット・エスプレッシーヴォ
・アラ・ロマンツァ―アレグロ・モルト
第3楽章 アレグロ・アニマート

グノー：アヴェ・マリア

クライスラー：愛の悲しみ

クライスラー：シンコペーション

クライスラー：テンポ・ディ・メヌエット

J.ウィリアムズ：シンドラーのリスト

J.ボック(J.ウィリアムズ編曲)：
屋根の上のヴァイオリン弾き

ピアソラ：天使のミロンガ

ピアソラ：ル・グラン・タンゴ

Program Notes

モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ　ト長調　K301
モーツァルトが生涯に何度も旅をしたことはよく知られています。旅するごとに楽想が花開きますが、このヴァイオリンソナタは1777年のマンハイム～パリ旅行（故郷ザルツブルクを飛び出してウィーンに定住した1781年のひとつ前の時代）の際の作品です。
それからモーツァルトのヴァイオリン・ソナタは、初期にはピアノが主でヴァイオリンは伴奏的でしたが、次第に両者が対等になっていきます。K.301はその中間期にあたる作品で、ピアノとヴァイオリンが、それぞれに主題を提示し、互いに受け渡しながら展開していく様子は、両者の役割が「伴奏と主旋律」ではなく、対等な二重奏へと近づきつつあることが見て取れます。
『尚、この曲は第18番と第25番と二つの呼び名があります。戯作であるK.55～K.61の7曲を第17番～第23番と数えた場合に、第18番は第25番と呼ばれていました（います）。』

グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ第3番　ハ短調　Op.45
清冽なノルウェーのフィヨルドを彷彿とさせるピアノ協奏曲で有名なグリーグですが、これは25才の時の作品で、もう一つの代表作「ペールギュント」も32才と若い時の作品です。しかしヴァイオリン・ソナタ第3番は44才（1887年）の時の作品で、作風はピアノとヴァイオリンが対等に響き合い、抒情とドラマが融合した力強い作品です。

グノー：アヴェ・マリア
この曲は、バッハの《平均律クラヴィーア曲集》第1巻「前奏曲第1番」（1722年）を伴奏に用い、1853年に書かれた作品です。1859年にはラテン語の祈祷文「アヴェ・マリア」が加えられ、歌曲としても親しまれるようになりました。18世紀のバッハ、19世紀のグノー、そして2000年を超えるキリスト教文化が一つに融合したこの作品が、現代の日本で演奏されているのは、ペルシャの宝物がシルクロードを通って奈良の正倉院にたどりついたのと同じような感慨があります。

クライスラー：愛の悲しみ
1905年に出版されたフリッツ・クライスラー作の、ヴァイオリンとピアノのための楽曲。「愛の喜び」と1対になる曲で、一見簡単な演奏でありながら、独特の情感を発揮させるなど、ヴァイオリニストには必携の演目です。

クライスラー：シンコペーション
たくさんヴァイオリンのための曲を残したクライスラー。小品が多いのですが、どれも彼の性格を表したようなおどけた様子が伺えるものばかりです。1926年作曲。シンコペーションはリズム形態を表す用語で、強拍と弱拍が通常とは違う位置に変えて演奏される。
出典：https://note.com/yukibooks/n/ncedb6587b626